広島工業大学紀要研究編
第45巻（2011）pp.305-312
報　　　　　　告

集落の空間構成に関する調査報告

── 平郡島における２集落について ──

西岡　いづみ *・森保　洋之 **・高東　博視 ***

（平成22年11月１日受付）

Investigation report concerning the space structure of the village.

──On two villages in the Heigun-Island──

Izumi NISHIOKA, Hiroshi MORIYASU and Hiromi TAKATOU

(Received Nov. 1, 2010)

Abstract

We investigated the element of the space & the form of the west / the east village of Heigun-Island.

The main investigation methods are field work / interview investigation / documents investigation / map analysis / others. We conducted an investigation into the three element of House / Street & Waterway / Village on the element of the space & the form. As a result of investigation, next was provided mainly.

① About the house, the characteristic of the village individual was provided. We considered the characteristic of the village individual from House-form, Plan-form, Roof-form, Wall finish, Site-border, Common use space, Field, and others.

② About the street & waterway, the type of the street-form and the relations of the street & waterway became clear.

③ About the village, we was able to grasp the characteristic of the village-formation process, and the unit of house-grouping.

④ The life & the social composition of the village affected the three element of House / Street & Waterway / Village on the element of the space & the form.

Key Words: Investigation Report, Space Structure, Villages in Heigun-Island, House / Street & Waterway / Village

１．背景・目的

山口県柳井市平郡島は，山口県の南東，周防大島の南西の位置する島である（**図１**参照）。東西細長い離島で，地形は，全体的に山が多く，急斜面が大部分を占めている。島の西部の南岸と東部の東岸に，入り江があり，そこに，平郡西・平郡東の２つの集落がそれぞれにある。平郡島の基本データは，**表１**に示す。現在の西・東集落の人口比率は，約２：３（西：東）であり，東集落の人口が西集落より多い。

* 広島工業大学大学院工学系研究科環境学専攻
** 広島工業大学環境学部環境デザイン学科
*** 広島工業大学環境学部地域環境学科

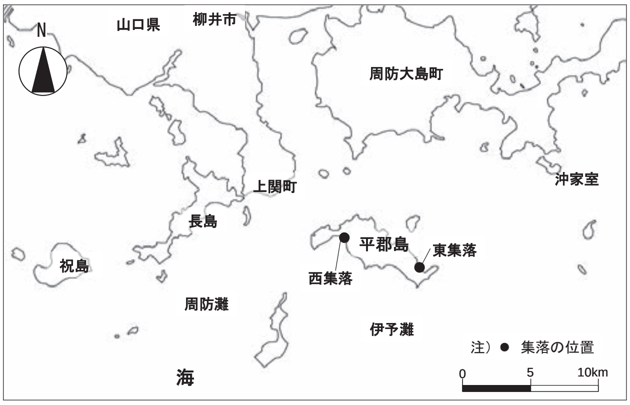


図１ 平郡島の位置

表１ 平郡島の基礎データ

自然環境	東西に細長く地形は急傾斜が多く段々畑が山の上まで続く。
面積	16.74㎢
人口	591人（2000年末現在） 最大時2,841人（1960年）
産業	農業68人（34%）、漁業45人（23%）、第2次産業18人（9%）、第3次産業67人（34%）：合計198人（100%）（2000年末現在）
特産品	タコ・乾燥ひじき・みかん・カーネーション
交通	定期船：柳井港→平郡西→平郡東と1日2往復、片道1時間40分で運航。
歴史	【東集落】 源氏の木曽義仲が京都の戦に負け、その家臣だった紀伊国藤代城主の鈴木三郎帯刀介仲光が、義仲の遺児平群丸（へぐりまる）らを保護して主従ら十六人が吉野に入り、さらにそこからも逃げて宇和島をへて、文治元年（1186年）にようやくこの島にたどり着いたのが始まりといわれる。平群丸は移住後間もなく亡くなり、その平群丸の名前をとって「平群島」と名付け、のちに「平郡島（へいぐんとう）」と呼ばれるようになったといわれている。 【西集落】 平群丸が流れ着いて後の約百年後の弘安二年（1279年）に伊予国越智郡から元寇の役に有名を轟かせた河野通有の氏族、河野丹治安武、浅海五郎政能らが移住してきたのがはじまりといわれている。

本報告では，平郡島の西集落・東集落の空間構成に関する空間・形態の要素を調査し，集落の空間構成を把握することを目的とする。

２．調査方法

本報告では，集落のハード面（形態・空間）を文献・図面・実態（観察・インタビュー）調査等で把握する。さらに，ソフト面（生活構成・社会構成）の視点から，形態・空間を間接的に分析する。この２つの見方で平郡島の集落の空間構成の把握を行なう（**図２参照**）。

平郡島の２集落の空間構成を把握するために，現地調査・インタビュー調査・文献・航空写真分析・地図分析・地籍図等のデータを用いた。現地調査（写真撮影，観察調査），インタビュー調査は，2010年３月22日（西・東集落），2010年８月22日～23日（22日：西集落，23日：東集落），2010年10月10日～11日（10日：西集落，11日東集落）の計３回（５日間）行なった。

本報告では，空間構成の定義を，「空間・形態の配置構成」とした。空間・形態の要素を，いえ，通り・水路，まちと分類し，その内容と配置構成の調査を行なった。また，平郡島の生活・社会構成からも，空間構成に関わる要素の調査を行なった。

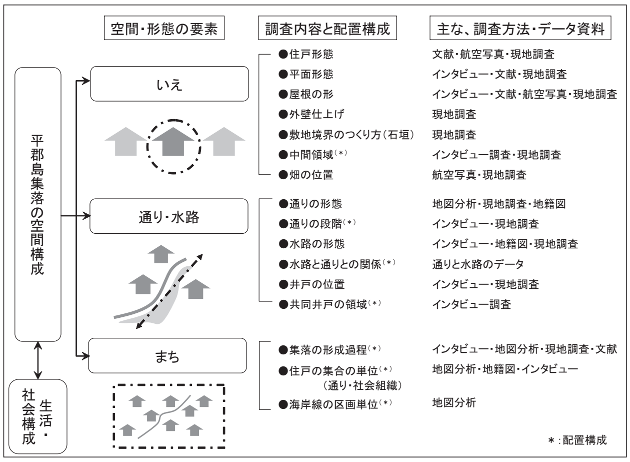


図２ 調査項目と方法

図３ いえの空間・形態の要素項目（文献２．～６．）

３．西・東集落における空間・形態の要素

3-1．いえ

ここでは，現地調査やインタビュー・文献等で「いえ」に関する空間・形態の要素の内容と配置構成の分析を行なった。なお，以下のまとめを**図３**に示している。

・住戸形態

平郡島の住戸形態は，多くが囲い込み型になっている。これは，島嶼部特有の風が強いためである。西集落では，特に風が強いため，ロ字型の形態をしている。東集落では，土地の広い人がL・コ字型の形態をとっていることがインタビューほかから聴取できた。航空写真からも，ロ・L・コ字型の屋根の形を確認することができた。

・平面形態

平郡島の平面形態は，西・東集落ともに，農家に多く見られる田の字型平面である。また，住戸形態に合わせて，納屋や物置がつくられている。建物で囲まれた空間は，中庭，畑として利用されていることを現地調査で確認することができた。

・屋根の形態

平郡島の屋根の形態は，西・東集落ともに，入母屋の二重屋根の多いことが現地調査で確認することができた。

・外壁の仕上げ（コールタール・練塀）

平郡島の建物の外壁の仕上げは，多くが黒いコールタールを塗って仕上げている。インタビュー調査から，昭和55年頃から集落で塗り始めたこと，塩分に強く，長持ちするのが特徴であること等が聴取できた。そうした住宅の位置を現地調査した結果，集落全体に点在していた。

また，東集落には納屋の外壁を石と土でつくった練塀（ねりへい）がみられた。インタビュー調査から，牛などの角で外壁が壊されないようにするためのものであることが，聴取できた。西集落でのインタビュー調査からも，昔は，練塀のような壁があったと伺うことができた。

・敷地境界のつくり方（石垣）

平郡島の敷地境界は，海岸線の通りに面している敷地の多くが，石垣を築いていた。特に西集落では，高い石垣が多く，防波のためや，風が特に強く吹くことへの防風対策が伺えた。東集落では，西集落ほど多く石垣は築かれていなかったことが現地調査でわかった。

・中間領域

西集落では，私有地であるが，浜に行くための近道として，通り抜けに使われる軒下空間や家と家との間の空間が数箇所以上あったことが，インタビュー調査から聴取できた。しかし，現在は，門扉や建物が建ち，通り抜けることはできない状況である。東集落でも，家の前庭的空間である門（かど）を通り抜け空間として利用していたことを住民の方から伺うことができた。

・畑の位置

平郡島では，家の前庭が畑の空間になっていることが多い。平郡島西では，家の海側に畑をつくって，その畑の海

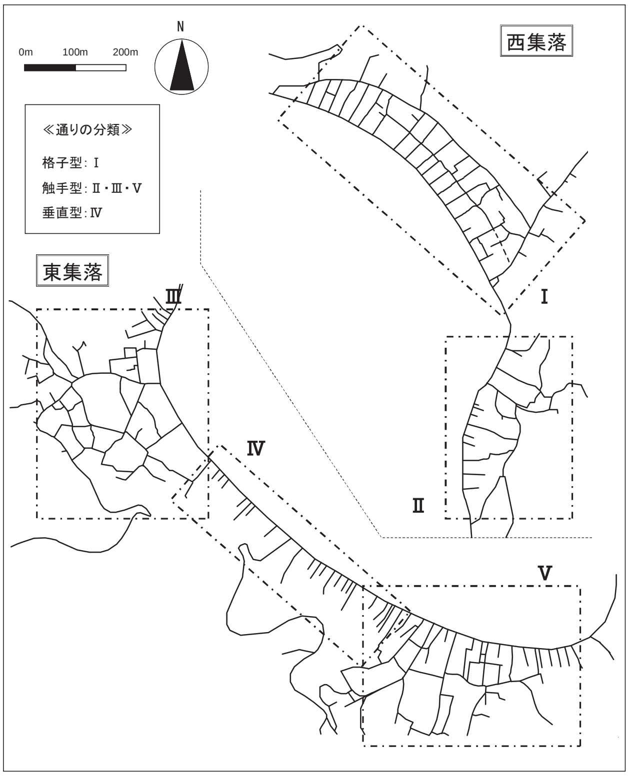


図４　通り形態

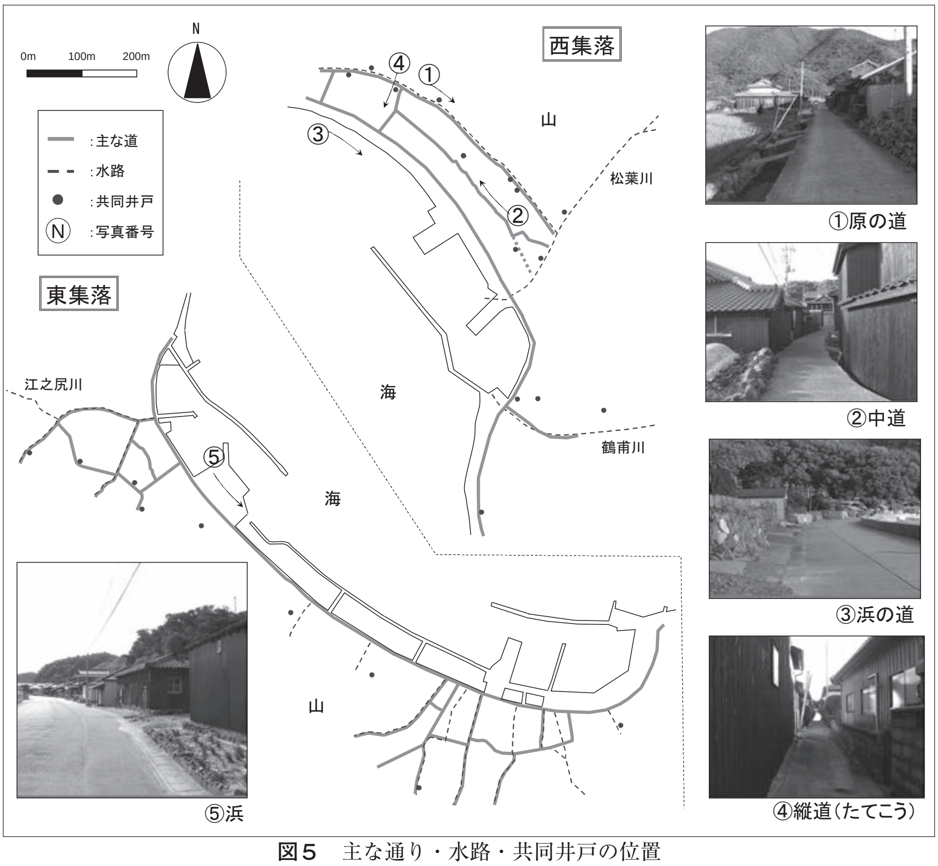


図５　主な通り・水路・共同井戸の位置

側を石垣で守るような形態であることが現地調査で確認できた。また，海側に畑をつくり，奥に住戸を構える形式の家が確認できた。

3-2. 通り・水路

平郡島の通り・水路の形態を，現地調査，インタビュー調査，また，地図等から分析した。

・集落の通りの形態

西・東集落の通りの形態の分類を行なった。２集落の全体をみると，通りの形態として，主に，Ⅰ～Ⅴの範囲が見受けられた（**図４**参照）。

西集落のⅠの範囲は，海側から緩やかな凸状の地形となっている。海に平行な主な３本の通りがあり，その通りと，垂直の通り（縦道）がある。全体的にみて，格子状になっているので「格子型」と分類した。

西集落のⅡ，東集落のⅢ，Ⅴの範囲は，いずれも急傾斜面片流れの地形となっている。主要な通りがあり，続いて触手のように道筋がのびて通りが形成されたと考えられる。通りが様々な方向に広がり，複雑な通り形態となっている。文献 10. を参考として，「触手型」と分類した。

東集落の中央に位置するⅣの範囲は，緩傾斜面片流れの地形で，山に向かって奥行きの距離が短い地形となっている。海側の浜の通りから，山に向けて，垂直に通りが形成されている形態である。通りが海から山に向けて，垂直に並んでいるので，「垂直型」と分類した。

・通りの段階

西集落のⅠの範囲では，**図５**の①～④の主な通りの種類がみられた。

①原の道：海岸と平行した，山側にある通りである。通りと平行して，山側に，水路があるが，20 年前から，水路の暗渠化をおこなって，広い通りとして利用されつつある。

②中道：海岸と原の道の，中間の通りである。緩やかな凸状に盛り上がった頂上付近を，通りとしている。昔は，今より中道の高さが，高かったことを，インタビューから聴取できた。現地での観察調査からも，通りの下に，多くの石がみられたので，もともと，「中道が石垣の防波堤だったのではないか」ということがうかがえた。

③浜の道：昭和 16 年頃，整備された，海岸線沿いの通りである。それまでは，原の道・中道だけだった。防波のために，集落側に高い石垣が，現地調査からも確認できた。

④縦道（たてこう）：原の道から，中道，浜の道を垂直に結んでいる幾つかの通りである。幅の広い通りは少ない。軒下を拡張して通り幅を広げたこと，その作業として，縦道を使う両側の住戸の方々で舗装を責任もって行ったことが聴取できた。現地調査のとき，住民の方々がこの通りに座り談話しているのを何度となくみることができ，コミュニケーション領域も兼ねた通りと考えられた。

東集落では，海側の⑤の主な通りがみられた。

⑤浜：海岸線沿いの通りであり，現在は，車２台分が通れる幅の広い通りである。昔は幅が狭く，浜が続いていた。

・通りと水路形態との関係

ここでは，先ほどの通りの形態と合わせて，現地調査やインタビューを行い，水路形態の把握を行なった。水路は，図５の様に配されていることがわかった。更に，通りと水路の関係性を分析した。結果，西集落のⅠの範囲では，山から流れる松葉川の水路に沿って，通りが形成され，①の原の道と平行して，松葉川に向かう水路が確認できた。また，西集落のⅡ，東集落のⅢ，Ⅴの範囲では，大きな水路に沿って通りが形成されていた。また，水路が，暗渠化して幅の広い通りとなっている場所が多々みられた。

主な通りは，水路が主となり，それと共に形成されていたところであることが分かった。

・共同井戸

水路と合わせて共同井戸の調査を行なった。インタビューから，**図５**のように配された共同井戸の位置が聴取・確認できた。西集落では，原の道に沿って井戸が点在していた。東集落も，西集落ほど多くはないが，集落全体に配

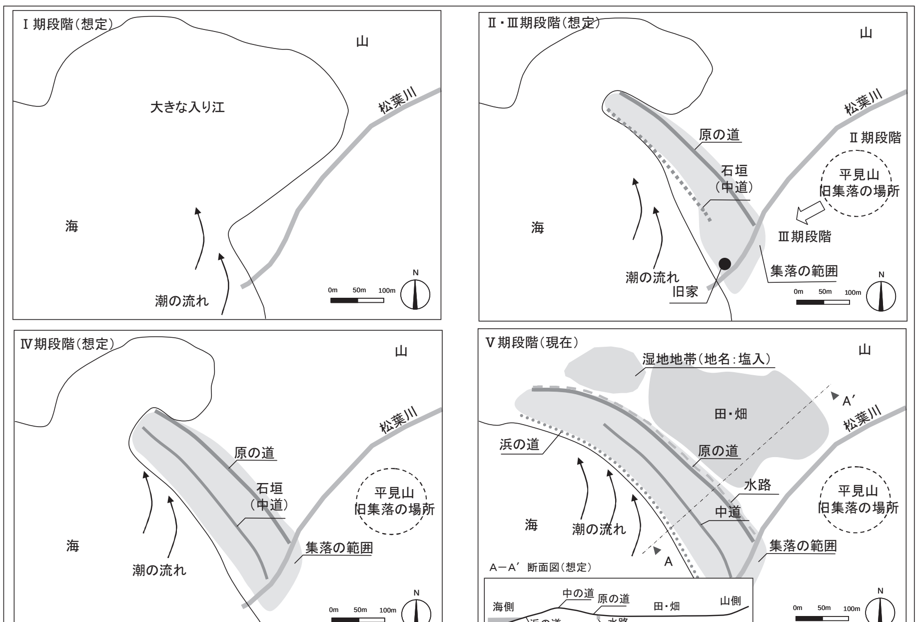


図６　西集落の形成段階（現地調査，インタビュー・他からの想定）

されていた。共同井戸の場所は，個人の土地と違って，地域ごとの公共の土地であることも聴取できた。

3-3.　まち

ここでは，まちの配置構成に着目し，集落の形成の仕方，集合の単位を分析する。インタビューや現地調査，地図分析，文献から西・東集落の相違点なども把握した。

3-3-1.　集落の形成過程

・平郡島西

西集落の北に位置する，**図４**のⅠの範囲は，土地が緩やかな凸状になっており，砂州で形成された地域ではないかと想定できる（文献９．ほか，参照)。集落形成の段階として，**図６**に示すように，Ⅰ期～Ⅴ期まで，想定できた。通りが格子状になっているが，昔は，Ⅰ期段階（想定）の様に,大きな入り江だったのではないかと考えられている。Ⅱ期で，平見山に旧・集落があったが，Ⅲ期で松葉川の河口に旧家があり，**図６**のように次第に，現在の集落配置になったと，インタビューや現地調査ほかから聴取できた。

・平郡島東

東集落では，インタビュー調査から，Ⅳの範囲の中央にある小学校辺りから，集落は形成されはじめ，次第に，両側に集落が広がったのではないかということが，住民からのインタビューほかより，確認できた。

3-3-2.　住戸の集合の単位

・社会組織（自治会）を基準とした住戸の集合の単位

続いて，社会組織（自治会）を基準とした住戸の集合の単位の分析を行なった。インタビューから，社会組織（自治会）の範囲を伺い，社会組織（自治会）の範囲の面積を算出し，地図から，建物の棟数の把握を行なった。

平郡島の社会組織（自治会）は，西集落では，①～⑨，東集落では，①～⑮，存在している（**図７参照**)。組織の境は，主に通りや川，敷地境界線で決められていた。これらの社会組織（自治会）に囲まれていた棟数を把握し，その面積(ha)と棟数の関係について回帰分析を行った。

結果，平郡島の集落全体では，**図８**の上のグラフの様になった。面積が大きくなるにつれて棟数も緩やかに増えていることがわかった。

また,西集落,東集落別の相違をみた（**図８**下のグラフ)。西・東とも差がなく，それぞれが，面積が大きくなるにつれて，棟数も緩やかに増えていく傾向がみられた。

・通りを基準とした住戸の集合の単位

ここでは，通りを基準とした平郡島の集落の集合の単位の分析を行った。先ほどの，社会組織（自治会）の範囲は主に通りで区分されていることが多い。地図分析から，通

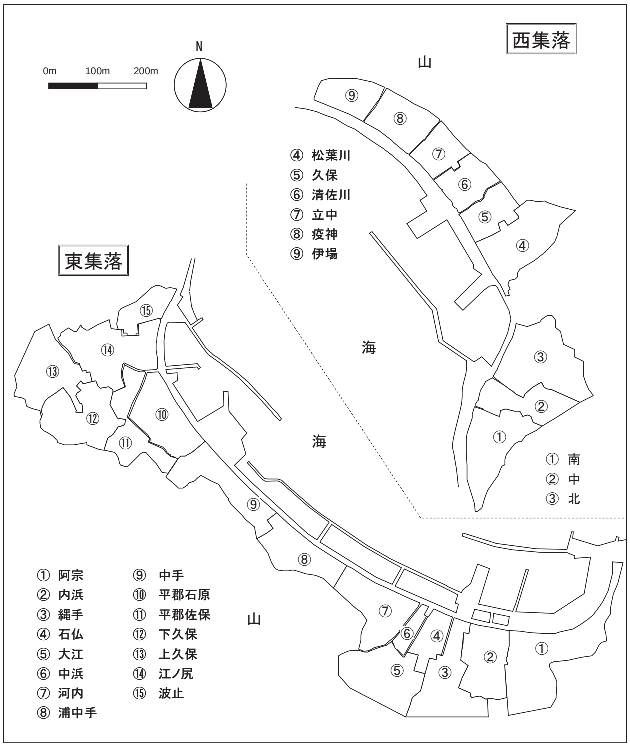


図７　社会組織（自治会）の範囲

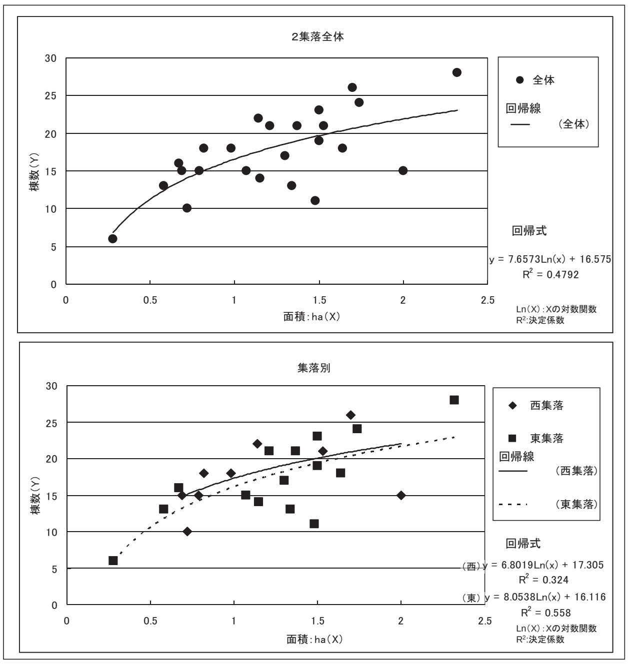


図８　集合の単位：社会組織（自治会）の範囲（面積・棟数）

りに囲まれた棟数の把握を行なった。通りに囲まれた範囲とその数を，**図９**の様に，西集落では，１～37，東集落では，１～49とした。社会組織（自治会）を基準としたときの住戸の集合の単位と同じく，通りに囲まれている面積と，その範囲内の棟数を把握し，その面積（ha）と棟数の関係について，回帰分析を行った。

結果，平郡島の集落全体では，**図10**の上のグラフの様になった。社会組織（自治会）を基準としたときと同じく，面積が大きくなるにつれて棟数も緩やかに増えていること

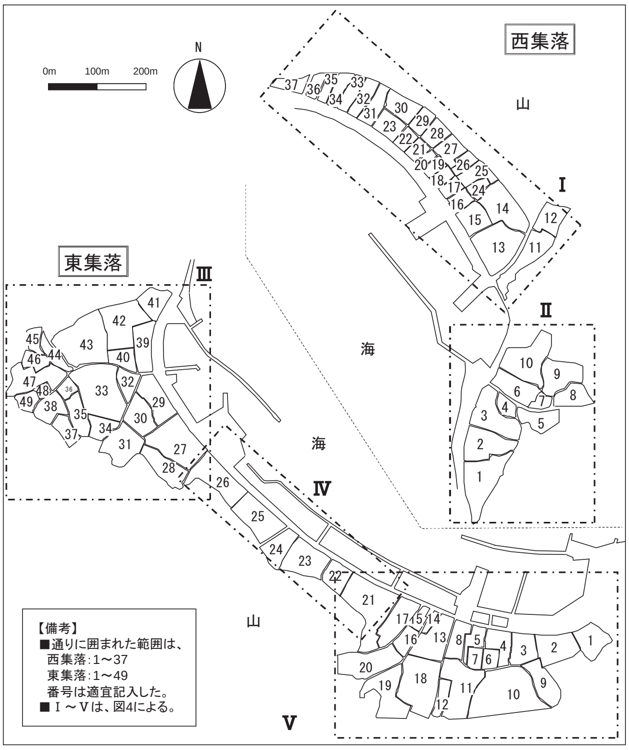


図９　通りに囲まれた範囲

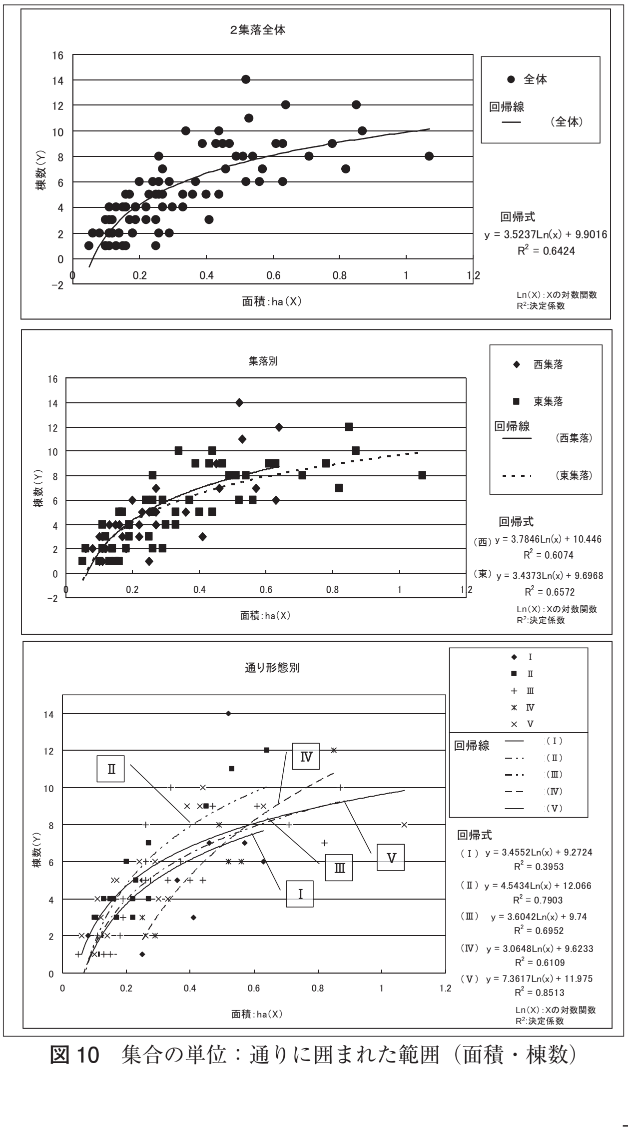


図10　集合の単位：通りに囲まれた範囲（面積・棟数）

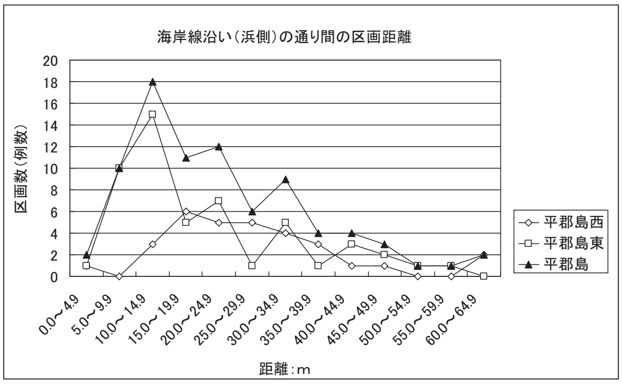


図11　海岸線沿い（浜側）の通り間の区画距離

がわかった。

また，西集落，東集落別の相違をみた（**図10**中のグラフ）。西・東とも差がなく，それぞれが，面積が大きくなるにつれて，棟数も緩やかに増えていくという傾向がみられた。

更に，通りの形態により，Ⅰ～Ⅴに分類した範囲別での相違をみた（**図10**下のグラフ）。結果は次のとおりである。

○ⅣとⅡは，それぞれ，他と独立して違いが見られること。

○ⅢとⅤは非常に似ていること。

○ⅢとⅤに合わせて，Ⅰも似ている傾向にあること。

ⅠがⅢとⅤに似ている傾向にあることについては，Ⅰの範囲に２つに区画化された範囲と，そうでない範囲と，２つの要素が混在しているためであることが考えられた。

・海岸線沿い（浜側）の通り間の区画距離

ここでは，西集落の浜の道，東集落の浜，両集落とも海岸線沿いの通りを中心に，通り間の区画距離がどのように形成しているのか地図分析を行なった。

海岸線沿い（浜側）の通り間の区画数と，区画距離を求めた。区画数は，**図９**よりも，細い路地を通りに含めて，区画設定を行なった（地図，省略）。西集落の区画は31，東集落の区画は52であった。区画距離（m）は地図から測定した。その結果を，**図11**に示す。

平郡島の集落全体をみると，海岸線沿い（浜側）の通り間の区画距離は，10.0～14.9 mの区画距離が一番多い結果となった。続いて，20.0～24.9 m，30.0～34.9 mの結果となった。また，西集落と東集落別に，通り間の区画距離を分析した。結果として，東集落は，先ほどの平郡島の全体でみたときの区画距離と同等の結果が得られた。一方，西集落では，一番多い区画距離（m）は，15.0～19.9 mであり，東集落より，広い区画距離であることがわかった。

４．生活・社会構成からみた集落の空間構成

ここでは，生活・社会構成から，集落の空間構成との関係をインタビューや文献（文献１．３．～５．ほか参照）を用いて分析を行なった。

本報告では，「生活構成」を，「集落で生活するため，生

きるために必要な生活活動・しくみ」と定義した。主に，産業･相続に注目し，集落の空間構成との関係を分析する。また，「社会構成」とは，「人間の共同生活のために必要な社会活動・しくみ・組織」と定義する。主に，社会組織，役目制度，やといど，トマリヤ（泊り屋），寺，神社に注目し，集落の空間構成との関係を分析する。

・産業［農業：平郡牛，漁業：いわし漁］

平郡島は耕地が少なく，島の人々は山の急斜面を切り開き，段々畑をつくってきた。昭和 30 年代には，「平郡牛」が放牧されていた。現在でも，東集落に牛の小屋である納屋が，練塀づくりの外壁として残っている家がみられた。

漁業では，網を使ったイワシ網漁が大規模に行なわれていた。イワシ網漁で使われる舟は，浜に置かれていたが，昭和 20 年ごろ浜を整備し，幅の広い道となっている。以前は，通りがとても狭いことが**資料 1** の写真からもうかがえた。

・相続

平郡島の相続について，西集落と東集落では大きな違いが，インタビュー調査や文献調査で分かった。

西集落は，長子相続である。長男以外は，遺産が分与されないため，ほとんどが島の外にでていく。残る者は，農業，大工・左官等の職人の方が多いと，インタビュー調査から聴取できた。反対に，東集落は分割相続である。長男以外も相続をうけ，集落内に住み続ける。そのため，土地が狭くなり，密集してくること，人口も西より東集落の方が多くなっていることが，インタビュー調査や文献調査からも確認できた。集落の土地利用に関して，相続が強く関係しているものと考えられた。

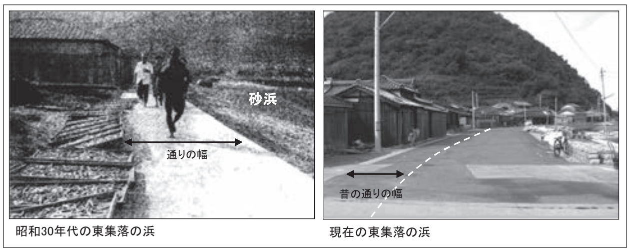
・社会組織［自治会］

平郡島には，社会組織として，自治会・区・班がある。西集落は，鶴甫（つるぼ）・松葉川・伊場（いば）の３つの自治会に分かれており，それぞれの自治会がまた班に分けられる。鶴甫は，南・中・北，松葉川は，松葉川・久保・清佐川（せいざがわ），伊場は，疫神（やくじん）･立中（たっちゅう）に分かれている。東集落では，羽仁と浦の２つの地区に分かれている。その下に，15 の自治会がある。

社会組織と空間構成の要素・共同井戸との関わりがインタビューから聴取できた。西・東ともに共同井戸が点在しているが，主に使われていた範囲が，社会組織（自治会）の範囲であった。

・役目制度

平郡島には役目制度と呼ばれる社会奉仕の制度がある。これにより，現在は，主に，海岸のゴミ拾いや草刈を行なっているが，昔は，造成する通りの整備の手伝い等が行なわれたことが聴取できた。基本的に皆で行なうが，その日に参加できない者は，他の人を代理として行かせるか，料金



資料 1　東集落の浜の通り風景（左の写真：文献７．より）

図 12　トマリヤ・墓地・寺・神社の位置

（負担金:ペナルティ）を支払う。この制度は，東集落では，現在，機能していないが，西集落では，現在も機能している制度であり，通りやまちをつくり，維持する制度の一つといえる。

・やといど

集落では，相互扶助の精神から，農作業の手伝いや住宅を建てるときなど，労力を提供しあっていた。集落の住まう空間を作り出すためを含めて，生活するために必要な組織の一つであったと考える。

・トマリヤ（泊り屋）

トマリヤは，若者が，心得･しきたりを学ぶ場所である。西集落では，宿の場所が，３軒聴取できた（**図 12** 参照）。その他にも，昔は，集落全体に配置されていたのではないかと考える。現在，機能してない社会組織であるが，トマリヤがあることで，技術･文化の伝承など，教育の場になっていたことが聴取できた。

・寺

西集落は，円寿寺があり，宗派は浄土宗である。西集落

の住民が全員，檀家となる。寺を維持するために，２つの寺を１つにして，１つの宗派に限定していることが聴取・確認できた。

東集落は，浄光寺（真宗）と海蔵院（曹洞宗）との２つがある。羽仁と浦にあり，浄光寺の檀家は，東集落の７割，海蔵院が３割となっている。

現在，人口が減少しつつあり，本土に住む島民が増えている。平郡島にお墓がある（**図 12 参照**）が，本土にお墓を移す例もあることを聴取した。西集落の自治会長は，集落を守るため，住人は少なくても，お盆に人が帰ってくるように，お墓だけは移動させないように願っていた。

・神社

神社について，西集落には，鶴甫地区に重道八幡宮があり，東集落の浦地区に，早田八幡宮，羽仁地区に海童神社がある。3つとも海岸沿いの通りに鳥居がたてられていた。早田八幡宮のお祭りでは，神社と鳥居の通りに屋台が並び，にぎわっていたことがインタビュー調査から聴取できた。

５．まとめと今後の課題

平郡島の西・東集落を対象に，いえ，通り・水路，まちの空間･形態の要素を中心に調査を行なった。また，生活･社会構造と空間構成との関わりを分析することができた。以上から，主に次のことが結果として得られた。

①「いえ」では，住宅形態・平面形態・屋根形態・外壁の仕上げ・敷地境界・中間領域・畑の特徴が，それぞれの集落でみられたこと。

②「通り･水路」では，通りの形態の類型化ができたこと，また，通りと水路の関係が明らかとなったこと。

③「まち」では，集落の形成段階，集合の単位の概要を把握することができたこと。

④集落の様々な生活・社会構成が，いえ，通り・水路，まちの空間・形態に及ぼす影響のあること。

以上，空間構成，生活・社会構成，等々は，地形的立地条件など，自然環境が基盤となっていることがわかった。これらを踏まえ，今後は，集落の空間構造に関する研究として，この報告を高めて行くことにしたい。

文　　献

1．境　吉之丞；柳井市平郡島史（1920）

2．山口女子短期大学；主婦を中心とした農漁村の家庭生活－山口県柳井市平郡島の実態調査報告－　山口女子短期大学研究報告 第 15 号（1961）

3．中央大学民俗研究会；山口県柳井市平郡島調査報告書「常民」第 23 号（1987）

4．柳井市；柳井市史（総論編）（1988）

5．新平郡島史編纂委員会；新平郡島史（1995）

6．佐々木崇雄；内海型離島の集落，住居に関する調査研究－山口県柳井市平郡西集落における集落，居住，地域構成の調査研究－　西日本工業大学 建築学科（1996）

7．新平郡島史編纂委員会；写真集「ふるさとの思い出」「ふるさとの風景」－平郡島西地区－（2004）

8．新平郡島史編纂委員会；写真集「ふるさとの思い出」－平郡島東地区－（2005）

9．武田一郎；砂州地形に関する用語と湾口砂州の形成プロセス　京都教育大学紀要　No.111（2007）

10．石渡辰也・梅村知足；集落の記憶－喜界島における集落構成と空間継承－　法政大学工学部建築学科永瀬研究室（2009）

謝　　辞

本調査を進めるにあたり，住田昌二先生，橋部好明氏，河村満生氏にご支援いただきました。また，現地調査，資料収集ほかに関しては，柳井市役所・伊藤義人氏，現地調査でのインタビュー等では，山口県柳井市・平郡島西集落の連合自治会長・大久保憲謙氏，東集落の連合自治会長・境幸伸氏，東集落住民の和田正司氏，宗野市人氏，福永鶴雄氏，久富鐵夫氏，伊藤勇氏，ほか，平郡島の住民の皆様にご支援・ご協力を頂きました。更に，現地調査等に関して，柳井市在住の酒井章氏，資料整理等，現学部生・網永拓哉氏ほか，大学院生･学部のゼミ生，OB･OG の皆様に，ご協力を頂きました。ご協力頂いた全ての皆様に厚くお礼を申し上げます。

付　　記

本研究は，財団法人「住宅総合研究財団」2009 年度研究助成によって実施した研究の成果の一部であります。記して，深謝いたします。